

第2回中堅・中小企業等のDX促進に 向けた検討会 事務局説明資料

2025年1月

経済産業省 商務情報政策局
情報技術利用促進課

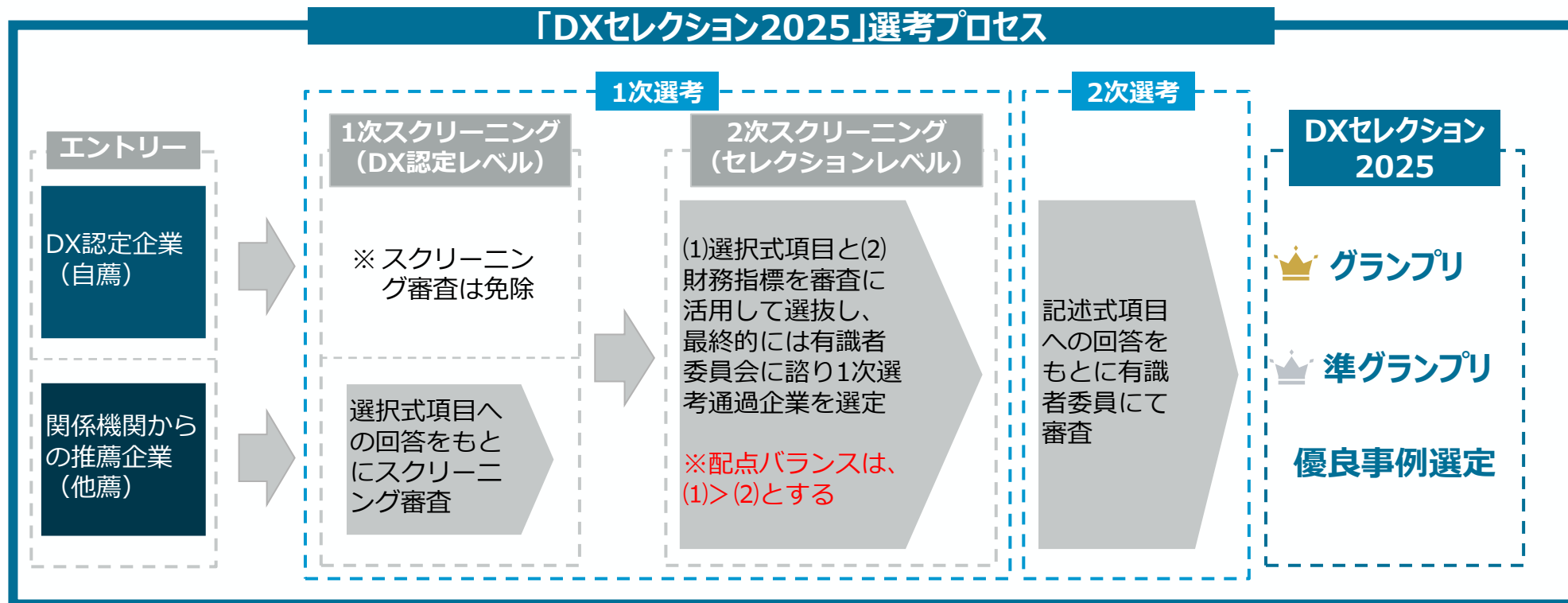
目次

1. DXセレクション2025について
2. 「中堅・中小企業等向け『デジタルガバナンス・コード』実践の手引き」について

1. DXセレクション2025について

DXセレクション2025選考プロセス

- 1次選考では、1次スクリーニング（DX認定企業は免除）と、2次スクリーニング審査の2段階でスクリーニングを実施。
- 2次選考で有識者委員による記述式項目の審査を経て、DXセレクション2025を選定。



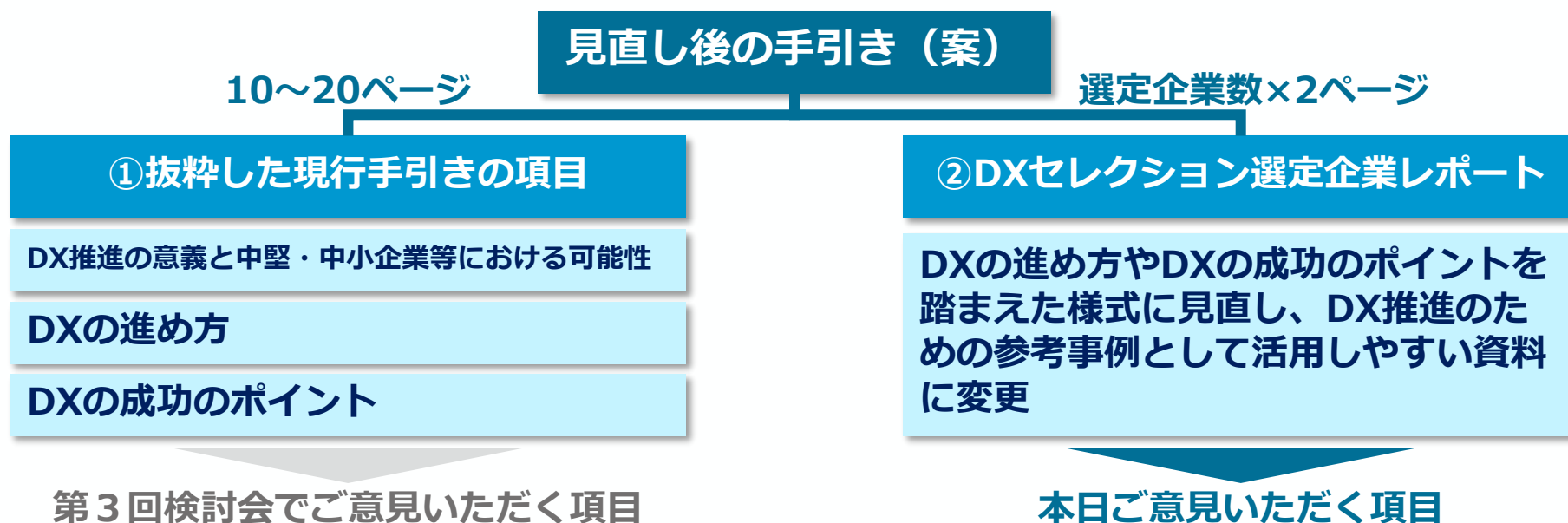
今後のスケジュール（予定）

1月27日（月）	第2回検討会
3月上旬	第3回検討会
3月下旬	DXセレクション2025表彰式

2. 「中堅・中小企業等向け『デジタルガバナンス・コード』実践の手引き」について

見直し後の手引き（案）の構成

- 第1回検討会でお伝えしたとおり、見直し後の手引きは、「抜粋した現行手引きの項目」と「DXセクション選定企業レポート」の2部構成にし、現行手引きから内容を減らしてシンプルなものにするとともに、セクション企業の取組をDX実践に向けた参考事例として活用していただく形式に見直すことを想定。
- 本日の検討会では「選定企業レポート」の様式内容についてご意見いただき、第3回検討会において、「現行手引きの項目」の中で改訂が必要な部分（特に「DXの成功のポイント」の記載方法・内容）について事務局案を提示し、ご意見をいただく予定。



手引き検討に当たっての現状把握

- 手引きの章ごとの概要と現状は以下のとおり。現状を踏まえると不要と思われる部分も多い。

手引きの章立て	概要	現状
1.DXとは何か、その可能性と進め方		
そもそもDXとは何か	優良企業の事例を交えながら、DXについて説明	コード3.0において、DX推進に関する企業向けメッセージをより詳細に記載
DX推進の意義と中堅・中小企業等における可能性	中堅・中小企業等における、DX推進のメリット、具体的なDXの進め方、成功のポイントを説明	コード3.0においても、中堅・中小企業等に特化したメッセージはなく、中堅・中小企業等に対して、DXの進め方について理解を促すものが必要
DXの進め方		
DXの成功のポイント		
2.デジタルガバナンス・コードの実践に向けて		
デジタルガバナンス・コードとは？	- コード本体の内容を抜粋 - 取組例は、企業の事例を交えながら独自の内容を記載	ほとんどがコード本体の内容を抜粋しただけのものになっている
デジタルガバナンス・コード実践のポイント及び企業における取組例		
中堅・中小企業等におけるDX取組事例集		
DXセレクション選定企業等の事例	優良企業の事例紹介	2025年度中にはIPAでDX事例データベースが運用開始 - DXセレクションでも選定企業レポートを作成

(参考) DXの進め方、DXの成功のポイント

DXの進め方（プロセス抜粋）

DX実現に向けたプロセス（仮説：一般論）

DX推進に
向けた
プロセス

1. 意思決定

経営ビジョン・戦略策定
・トップダウンの意思決定
・DX推進チーム設置

2. 全体構想・意識改革

全社を巻き込んだ変革準備
・アナログデータのデジタル化
・推進チームと事業部門の
協力による成功事例の創出
・社内全体の活発化

3. 本格推進

社内のデータ分析・活用
・データ分析の前提となる
業務プロセスの見直し
・新たな価値を産むデータ
活用/システム構築

4. DX拡大・実現

顧客接点やサプライチェーン
全体への変革の展開
・顧客に新たな価値を提供
・大胆な投資・意思決定

DXの成功のポイント（項目抜粋）

- (1) 気づき・きっかけと経営者のリーダーシップ【意思決定】
- (2) まずは身近なところから【全体構想・意識改革】
- (3) 外部の視点・デジタル人材の確保【DX実現プロセス全般】
- (4) DXのプロセスを通じたビジネスモデルや組織文化の変革【DX拡大・実現】
- (5) 中長期的な取組の推進【DXプロセス全般】
- (6) 伴走支援の重要性と効果的な支援のポイント

現行の選定企業レポートの課題

- 現行のデジタルガバナンス・コード実践の手引きに記載している「DXの進め方」や「DXの成功のポイント」に沿った質問項目ではないため、**手引きで学んだ成功のポイント等を優良事例に当てはめて考えることが難しい**様式になっている。
- **質問項目が多く、一つの項目に記載できる文量が少ない**ことで、回答内容が抽象的になっている。
- 取組プロジェクト等を記載する項目がなく、企業のビジョンや体制等の話が多くなっていることで、**企業の具体的なDXに関する取組やそれに対する委員による評価のポイントがわかりにくい**。
- 企業選定後からレポート作成までの期間が短い（1週間程度）ため、**一から企業に考えていただく質問項目の場合は、企業の事務負担が大きい**。



DX Selection
2024



DX認定

グランプリ

浜松倉庫株式会社（倉庫業）/静岡県浜松市

【企業概要】URL：<https://www.hamamatsu-soko.co.jp/>

資本金：54百万円

従業員数：116名

代表者：中山彰人



浜松倉庫

【事業概要】

- 倉庫事業、運送事業、
駐車場事業等

【企業理念】

- 正確に、迅速に、親切に

取組概要

【DXに取り組むきっかけ】

- 2015年より、生産性向上のための将来を見据えた新しい業務の在り方を、**若手管理職を中心とした社内プロジェクトで検討**させた。

【DXによって実現したい経営ビジョン・ビジネスモデル】

- 「お客様に対して持続可能で豊かな社会を実現させる物流サービスの提供」を実現させるために「収益力の強化」「高付加価値サービスの提供」「経営基盤の強化」を進める。

【DXを推進するための戦略】

- 「**ロボット」「AI」「BIツール」「新チャレンジ」「新倉庫**」を推進することで、「省力化・省人化の実現」「ステークホルダーとの協業体制」「新分野(医療等)への参画」の実現を目指す。

【組織づくり・人材確保の取組み】【デジタル技術活用取組】

- 集中的に社内システムや業務改善の仕組みを学ぶ研修を行い、人材育成に努めている。
- 毎月DX推進担当が**各営業所を定期訪問**することでDX推進をフォローする体制を整えている。

【DX推進に向けたガバナンスシステム】

- 「DX戦略実務執行総括責任者（代表取締役社長）」を責任者とし「DX経営戦略事務局」が戦略策定および推進・人材育成とシステム管理・セキュリティの推進を図っている。

【成果】

- 生産性が30%向上**し、新センターに必要な人員(10名)を確保することができた。
- 従業員のマインドチェンジができ、デジタルを活用した**業務改善プランを立案**可能になった。

(参考) DXセクション2024
選定企業レポート



DX推進による成果

【事務系】

DX実践前

データ入力に
費やす時間

1日業務の

80%

基幹システム
WEBサービス
i/fツール

DX推進後

データ入力に
費やす時間

1日業務の

5%



【現場系】

DX実践前

経験と勘で
進捗を判断

↓
人員配置に
無駄な時間

基幹システム
BIツール

DX推進後

リアルタイムに
進捗把握可

↓
**迅速・適正な
人員配置**

生産性 30%向上
従業員の改善能力向上
営業利益率4.5%向上達成

わが社のDXのポイント

【DXを進める上での苦労や行った工夫】

- 社内プロジェクト形式で進めたが、特に下記の3点を意識した。
 - ①自分たちで一から考える**：ボトムアップ型のプロジェクト（従業員一人ひとりが脳みそに汗をかく・ゼロベースで業務を考える）
 - ②お客様を巻き込む**：サプライチェーン全体を意識する（顧客アンケートの実施・データ提供いただく手段を複数用意）
 - ③従業員のマインドチェンジ**：小さな施策を複数おこなう（徐々に味方を増やす・PJの達成感を小さなサイクルで実現する）

【DXを進めたことによる具体的な変化】

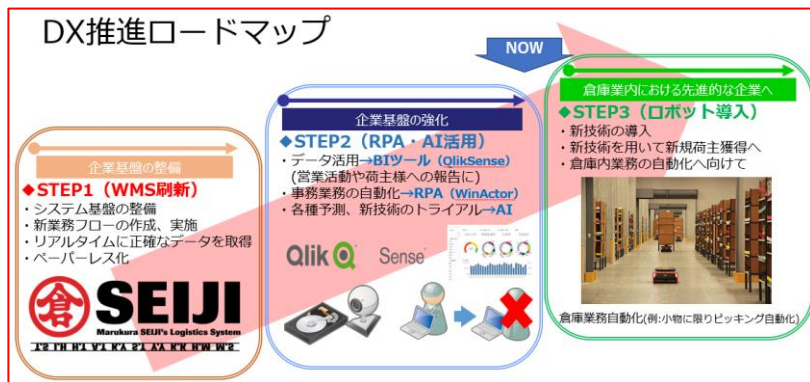
- 業務改革を踏まえた基幹システム刷新により、**生産性が30%向上**し新センターの必要人員(10名)を確保できた。
- 従業員のDXに対するマインドが向上**し、従業員のアイデアで複数システム連携（WMS × BI × RPA × モバイル）が実現。
- お客様に対して、様々なデータを提示することができるようになり、具体的な改善や料金改定が進み、**打合せの活発化**に繋がった。

【DXへの取組み時を振り返って】

- デジタル化・IT化が目的になりがちであったが「**DXは、あくまで手段であり、目的では無い**」を社長自ら積極的に社内発信していったため、社内変革（X）の積み重ねであることを社員が共通認識として持つことができ、常にブレることなく進めることができた。

【これからDXに取り組もうとする企業へのメッセージ】

- 現状を分析し、お客様を巻き込んだ業務変革（X）をした結果として、デジタル化（D）を進めるとよい。
- DXにはITベンダーの協力は不可欠ではあるが、任せきりになってしまうと成果が上がらない。**自分たちで汗を流す必要**がある。



▲DX推進担当による現場相談



▲従業員のアイデアから実現した進捗管理

論点：新たな選定企業レポートの対応

- 質問項目について、「DXの進め方」や「DXの成功のポイント」に沿ったものに見直し。
- 昨年のレポートよりも**大枠の質問数を減らし（10問⇒7問）、一つの項目に記載できる文量を増やす**ことで、企業はより具体的な記述が可能に。
- 応募の際に記述したプロジェクト等を転記できる項目（＝委員が実際に審査いただく内容）に変更し、**企業負担を減少するとともに、評価された取組に焦点を当てた内容**に見直し。

新たな選定企業レポート（案）の特徴

1 枚目

- 企業が焦点を当てて欲しい「**DXの取組プロジェクト等**」の記載をメインに据え、**選定企業の具体的なDXの取組が分かりやすい**様式に変更
- 応募用紙の「取組プロジェクト等に関する項目」を基に記入してもらうことで、企業の作業負担を軽減

2 枚目

- 手引き記載の「DXの進め方」のプロセスに準拠した形で、**選定企業のこれまでのDX推進の流れが分かりやすい**様式に変更
- プロセスやDX推進体制の設問の中で、「DXの成功のポイント」に関係する項目を設定し、選定企業の取組内容を手引き記載の観点から掘り下げ
 - **プロセスの「本格推進」の項目には、関連する成功のポイントがないため、コード3.0で強調した「データ活用・連携」について、新たに成功のポイントの1つとして今後追加する予定**

見直し後選定企業レポート様式（案）（1/2）



DX Selection
2025



グランプリ

準グランプリ

選定企業

●●株式会社（●●業）／●●県●●市

企業概要（URL）

https://●●

事業概要

●●

資本金

●●百万円

従業員数

●●名

代表者

●● ●●

企業ロゴや企業の外観、業務風景等、
選定企業に関係のある画像

代表者写真等

■ DXの取組プロジェクト等

● ● ● ●

■ DX推進の成果

● ● ● ●

応募用紙の「取組プロジェクト等に関する項目」を基に
記入してもらうことで、企業の作業負担を軽減
（写真等は余剰スペースを活用）

見直し後選定企業レポート様式（案）（2/2）

DX Selection
2025

DX認定

グランプリ

準グランプリ

選定企業

DX実現に向けたプロセス

DXの進め方のプロセスに準拠

意思決定 経営ビジョン・戦略策定等	全体構想・意識改革 全社を巻き込んだ変革準備等	本格推進 社内のデータ分析・活用等	DX拡大・実現 顧客接点やサプライチェーン 全体への変革の展開等
..... 成功のポイント5 中長期的な視点 (経営ビジョン) 経営者がスピード感を持って リーダーシップを発揮した事例	 成功のポイント2 まずは身近なところ から 身近な部分における取組の 成功体験	 どのプロセスにも成功 のポイントが反映され るよう、データ活用 に関する記載を新たに成 功のポイントに追記 DXを進める上での苦労や 行った工夫	 成功のポイント4 ビジネスモデルや 組織文化の変革 将来のビジョンや今後の展望
..... 成功のポイント1 きっかけと経営者の リーダーシップ			

DX推進体制（人材の育成・確保の取組／外部の支援機関等の活用）

.....

成功のポイント3
外部の視点・デジタ
ル人材の確保

成功のポイント6
支援機関等による
伴走支援

※ 成功のポイントの記載方法・内容については、全体見直しの上で第3回検討会で議論予定